

クローズアップ!

知っておきたいビジネスキーワード

経営に役立つキーワードを解説(9)

監修：大阪経済大学中小企業・経営研究所

解説：杉田 武志（大阪経済大学 情報社会学部教授）

今月のキーワード

総資産利益率（ROA）：資産と利益の関係がわかる！

$$\text{総資産利益率} = \text{純利益} \div \text{総利益}$$

会社の資産が利益に結び付いていますか？

自社が保有する資産(現預金、在庫商品、建物、機械装置、備品など)と、獲得された利益の関係を考えたことはありますか？

決算書のうち損益計算書に示される会社の利益(営業利益や当期純利益など)は、会社がビジネスの一環として商品を販売したり、何らかのサービスを提供したりして、売上収益を獲得することでもたらされます。

売上収益の獲得には、それらを獲得するための費用(コスト)も必要で、例えば、販売された商品の仕入原価や、商品の輸送費用、従業員に支払われる給与、広告宣伝費、商品開発のための研究開発費や事業に必要な水道光熱費などがあります。

そして、会社の決算書のうち貸借対照表に計上される、上述のような資産は、商品の生産やサービスの供給など、会社の事業などにも直接的、間接的に関連しており、最終的に利益の獲得に貢献しているという見方もできます。

そこで、会社が保有する資産が効率的に利益の獲得に結び付いているか、という視点で用いられる財務分析の指標のひとつが、総資産利益率(以下、ROA)です。

ROA はシンプルな計算式で算出できます

ROA は、損益計算書の当期純利益の金額を貸借対照表における総資産額で割って算出する、シンプルな指標(%)で、保有する資産がどれくらい効率的に利益の獲得につながったのかを検討するための判断材料にも利用されます。

同じ 10 万円の利益を獲得した 2 つの同業他社を想像してみてください。資産

規模が 500 万円の A 社と 1,000 万円の B 社では、A 社の ROA は 2% (10 万円 ÷ 500 万円)、B 社は 1% (10 万円 ÷ 1,000 万円)になり、A 社は B 社よりも保有資産を効率的に活用して 10 万円の利益を獲得したとも考えることができます(収益性を示すために、営業利益や当期純利益を売上高で割って計算するような利益率だけでは、こうした資産の効率的な活用の度合いと利益の関係は測れません)。

また、財務総合政策研究所公表の「法人企業 統計調査」では、同様の指標として「総資本営業利益率」があげられており、営業利益を総資本(期首・期末平均)で割って算出しています。

財務分析の指標は、あくまで平均的な値を算出する仮定の計算でもあり、ビジネスモデルによって数値に相違がみられますが、会社の資産が効率よく利益の獲得に結び付いているかどうかを考えたい場合には、ROA を計算してみるのもよいかもしれません。